

本棚



放射線医学 核医学・PET・SPECT

小須田茂 編
榎林 勇, 杉村和朗 監修



臨床的な観点から、核医学に関する検査法、検査の適応、読影に関してこれだけは知っておきたいことが簡潔にまとめられた好書である。FDG-PET/CTの普及やRI内用療法の進歩、センチネルリンパ節シンチグラフィ

ィを利用した手術の保険適用などにより、核医学診療は一昔前と様変わりしている。本書にはこれらのことが良く反映され、脳核医学に始まり、領域別のFDG-PET/CT、センチネルリンパ節シンチグラフィ、RI内用療法について最新の情報が第一線で活躍されている著者により要領よく解説されている。また、小児核医学が1つの項目としてまとめられているのも特徴である。

全体としてはボリュームが抑えられており、読みやすく編集されているが、項目ごとで見るとメリハリの利いた内容の濃いものとなっている。脳核医学では、現在、最も重要な分野の1つである認知症に関する疾患が網羅され、SPECT/PET所見が簡潔にまとめられている。心・大血管核医学では今年の4月に保険適用となったばかりの心サルコイドーシスのステロイド治療前後のFDG-PET/CT画像が紹介されている。呼吸器核医学では、肺高血圧症や右左シャント例での安全を担保するためのMAAの投与

粒子数に関する具体的な注意事項が記載されており、是非参考にさせていただきたい。内分泌核医学では疾患ごとの臨床所見や検査所見について多くの内容が表の形式で分かりやすくまとめられており、大変便利である。骨・関節核医学では生理的集積、転移性骨腫瘍、不全骨折、代謝性疾患等の典型的な画像が見やすい形で紹介されており、疾患ごとの特徴を一目で理解できる内容となっている。消化器核医学では撮像のタイミングや読影上の注意点が丁寧に記載されており、腎臓核医学ではカプトプリル負荷や移植腎についても簡潔に述べられている。センチネルリンパ節シンチグラフィではその概念、乳癌、悪性黒色腫、胃癌、頭頸部腫瘍の具体的な検査法と放射線管理について述べられている。小児核医学では成人とは異なるRI分布を示す脳についての記載が詳しく、消化器・腎・内分泌等についても多くの症例が提示されている。

FDG-PET/CTに関しては頭頸部、肺・縦隔、消化管腫瘍、肝・胆・膵病変、女性・生殖器、悪性リンパ腫、ピットフォール、任意型検診がそれぞれ独立した項目として取り上げられており、領域ごとの検査の意義や限界、読影に際しての注意事項が実際の症例を提示しながら分かりやすく書かれている。ピットフォールでは、生理的集積やFDGの集積しやすい良性病変が表にまとめられており便利である。最後の項であるRI内用療法では、最近話題の甲状腺全摘出後のアブレーションを含む放射性ヨード治療、 ^{89}Sr による疼痛緩和療法、 ^{90}Y -ゼヴァリンを用いたCD-20陽性B細胞性リンパ腫の治療に関する最新の情報が盛り込まれている。

本書には日常診療において必要最小限知っておくべきことが網羅されており、核医学診療に日頃携わっている方はもちろん、これからSPECT/PETの臨床を始めようとしている方や核医学・放射線科専門医を目指す方にも是非一読を勧めたい本である。

(桑原康雄 福岡大学病院)

(ISBN978-4-7653-1528-9, A4変型判160頁, 定価本体4,600円, 金芳堂, ☎075-751-1111, 2012年)